

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

調査対象：5年生

調査事項

ア 実技に関する調査

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査）

1 結果と分析

- 男子は、特に握力などの大きな力を出す能力である筋力や、ソフトボール投げなどの調整する能力やすばやく動き出す能力が優れている。
- 女子は、特に20mシャトルランなどの運動を持続する能力が優れている。
- 男女とも、長座体前屈などの大きく関節を動かす能力である柔軟性に課題がある。

2 取組についての評価

(1) 体育科の学習指導

①効果があった取組

- ・タブレットなどのICTを活用し、自分の運動を客観的に評価することで、「できた、分かった」が実感できる学習活動の設定
- ・友達と助け合ったり教え合ったりする活動を通して、運動のポイントを共有し、課題解決に向けた協働的な活動の設定
- ・「できなかったことができるようになった」達成感を自覚させ、運動への意欲を高める振り返り活動の設定

②改善を図る点

- ・柔軟性を高めるための運動を、体育の時間の準備運動の中に位置づけ、継続して行うこと
- ・児童が自分に合ったペースで主体的に練習に取り組むことができるよう、個に応じた練習の場づくりを行うこと

(2) 今後の体力向上に対する取組

- ・運動が好きな児童や意欲的に運動しようとする児童を増やすために、体力アップシートをスポコン取組強化週間で活用し、日常的な運動習慣を定期的に評価する。
- ・運動に適した体調を整えるため、適切な生活リズムの確立や朝食摂取の習慣化を図れるよう、さらに家庭と連携していく。
- ・「スポコン広場」に全学級で登録し、年間を通して記録の更新を目指し継続的に運動に取り組むことで、体力を高める。